

第66号



2016.03



TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

TEL: 088-656-3303



2月6日（土）、横浜国立大学非常勤講師の矢部まゆみ先生を講師に招いて、心の声をきこう・つながろう～「また来たい」「続けよう」と思える日本語教室づくりのために～と題して、日本語支援ボランティアスキルアップ講座を開催しました。

日本語支援の方法には様々な手法がありますが、今回はその中でも近年注目されている「対話や行動・体験を重視した日本語活動」に焦点をあて研修をすすめました。

矢部先生の講演やワークショップをはじめ、TOPIA日本語教室で1年半、この対話・活動型の日本語指導に取り組んで下さった元木先生やサポーターからの実践発表を通して、参加して頂いた39名の方の多くから、自分の活動の中には是非この手法を取り入れてみたいとの感想を頂き、充実した講座であったと実感しました。

あわせて、徳島の日本語支援活動や、日本語に不安を感じる在住外国人の方々の生活は、今回のように熱心に受講して下さった多くの日本語支援者の皆さんの温かい気持ちによって、支えられていると再認識した時間でもありました。

平成26年10月から火曜日のTOPIA日本語教室でサポーターとして活動してくれた方々にスキルアップ講座の感想を寄稿していただきました。

矢部先生の講演について

ワイス 美江

2月6日、TOPIA主催の講座で、矢部まゆみ先生の講演を聞きました。

まず1つ目に、「多文化共生のまちづくりの視座から、日本語教室の活動を、どのように作ったらいいのか」ということで「共通点探し」をグループに分かれて行いました。グループでできるだけ多くの共通点を見つけ出し、他のグループにない共通点が見つかったら、5ポイントが追加されるというゲームでした。私たちのグループは、色々な共通点を見つけ出しましたが、残念ながらポイントでは負けてしまいました。ただ、このアクティビティをすることにより、親近感が生まれ、言葉が増え、共通点を知ることによって話題が増え、お互いにつながるができるということを体験することができました。また、リアルなコミュニケーションは、達成感や自信、意欲につ

ながることも理解することが出来ました。

2つ目に、「『また来よう』『続けたい』と参加者が思える日本語教室とは、どんな教室なのか」ということをグループで話し合ってみました。初級の学習者ならば、絵を描いたり、用意したりして、指さしをしながらコミュニケーションを取り、共通点を探ることができるといった意見がありました。矢部先生のクラスでは「おにぎり交流会」を行い、おにぎりの中に何を入れたかによって共通点を見つけたという興味深い体験を披露され、皆さん興味を持たれていました。私もこれは使えると思いました。

講演のまとめで、対話とは、相手の声を聴き、「形にする手伝いをする事」、「一緒に見つけること」など、フレイレやバフチンの理論の紹介があり、言語習得には、エンパワーメントの実現が大切で、それをする事により、人とつながり、自分らしさや力を取り戻し、発揮したり、社会の一員として自立し、社会生活に参加することができるということを学びました。また、それを見つけ出す手助けとして、学習者の状況やニーズを知ること大切ですが、行動・体験中心の活動を計画することも1つのポイントであることを学びました。私自身、是非実施したいと思いました。

火曜日クラス実践発表

嶋田 由紀子

最初は、「間違えた事を伝えてしまったらどうしよう。迷惑をかけたらどうしよう。」この気持ちでいっぱいでした。それがいつの間にか毎回、「楽しみ〜。次の授業ではどんな話になるかな。どんな発見があるかな。どれだけ笑顔を見る事ができるかな」という気持ちになっていた事を改めて思い出しました。そして、お互い打ち解けて、時間とともに仲良くなっていった事も思い出しました。

ある日、それぞれが興味のある場所へ行きましょと、3つのコースが準備されました。でも、「どうせ行くなら皆で一緒に行きたい!」という学習者の方からの声で、結局は全員で予定のコースを順番に行く事になりました。皆で体験した!この事が、後から何度も話にでてきました。どんどん話は膨らみ、わからない言葉があっても何とかこの時の楽しさを共有したいと思うから一生懸命に話をします。参加できなかった人にも、「次は一緒に参加しようね」と楽しさを伝えます。

楽しかった事を共有したい、みなに伝えたいとお互いが思うから次も楽しみになりました。

火曜日クラスに行くと、たくさんの笑顔を見る事ができます。人数が少なくても、外に出る事ができなくても、笑顔になれる事はたくさんありました。お互いの昔の写真、おもちゃ、広告、折り紙、楽器、絵。食べ物関係は特に楽しい!

発表の後で「楽しそうでいいね。」「同じようにやってみたいな」と声をかけていただいたり、「文法はどうしているの?」と、心配もしていただきました。難しく考えず、とにかく「笑顔」の時間を共有できる事で日本語を使えるようになっていくのも良いのではないかと改めて思いました。

ワークショップおよび意見交換

岡田 絵里奈

第三部の意見交換では、TOPIA火曜日クラスのサポーターの活動は楽しそうだと多数の意見がありました。サポーターが楽しんで支援に参加している様子が他の参加者の方々に伝わったようです。日本文化を教えるためのおりがみや、外に出かける活動をしてみたい、という声がありました。難しそうと思った点は、活動の安全面や費用の問題、また、先生のサポートがないと不安かもしれない、と言った意見がありました。クラスの外から見た意見を聞くことは、大変参考になりました。

学習者の方は、日本語の勉強を通して、クラスで友達ができ、日本人と仲良くなれることが、嬉しいようです。対話型クラスは、日本語を学ぶだけでなく、人と人が繋がる場所でもあるのです。サポーターの私も、学習者、先生、クラスに関わる皆様と深い繋がりが持てたことは、支援活動を始めて一番嬉しかったことです。

自らの今までの支援活動を振り返ると、最初は、うまく日本語が教えられるのだろうか、と心配していました。学習者の皆さんと一緒に私も勉強するような気持ちでしたが、クラスに通うにつれて、今では、継続するには楽しむことが一番良いことだと思っています。今後も楽しい支援活動になることを期待しています。

当協会では県の事業として、主に当協会に登録をしている語学ボランティアを対象に「専門ボランティアスキルアップ事業」を毎年、実施しており、先進的な取り組みを行う団体等から講師を迎え、語学ボランティアのスキルアップをはかっております。

「医療通訳研修」を開催して

公益財団法人徳島県国際交流協会
国際交流・協力コーディネーター 木村 純子

2月21日（日）に医療通訳研究会（MEDINT）代表、そして（公財）兵庫県国際交流協会外国人県民インフォメーションセンターのスペイン語通訳相談員の村松紀子氏を講師としてお迎えし、「医療通訳研修」を行いました。村松氏は青年海外協力隊員として3年間、パラグアイで農業指導に従事され、帰国後、在日外国人の相談員として活躍されながら、2002年に医療通訳に特化した研究会を設立されました。

今回の研修は「私にもできる外国人医療支援 ～医療現場のコミュニケーションについて考える～」と題して、村松氏が自分の支援レベルを知り、できることを発見しながら、基本的な医療通訳の心構えや気をつけるべき点などについてパワーポイントで非常にわかりやすく教えてくださいました。

研修の申し込みをされる方から、「医療通訳にはとても興味があり、今回の研修を受講したいのですが、語学力があまり高くなくても大丈夫ですか？」との問合せが多く、医療通訳には高い語学力が必要だと考える方が沢山いらっしゃると感じました。私もその一人だったのですが、研修で「やさしい日本語での言い換えのできる人」も今の医療現場で必要とされている人材であるということがわかりました。「やさしい日本語」とは、私たちが普段使用している日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことです。ワークショップで「あおむけ、絶食、胃カメラ、飛沫感染、採血…」をやさしい日本語で言い換えをしましたが、いざ、言い換えるとなると皆さん、苦戦なさっていました。村松氏が「胃の検査をするので、外国人の方に『明日は朝からごはんを食べないで下さい』と伝えたとこ、お米以外の物を食べてきた人がいました」とおっしゃり、会場からはどっと笑いが出たと同時に日本語からやさしい日本語へ言い換える際の配慮の難しさを感じました。

その他、DVDで、通訳の悪い例の映像を見て、どのような通訳が適していないのかを、具体的に考えることができたことや、他己紹介のワークショップで、実際にメモをとり、聞き取ったことを一人称で伝える練習は、具体的に通訳の場をイメージすることができたので、大変良かったです。また、医療通訳は、命に直結することでもあるので、自分の力を上回る通訳を必要とする場合は、お断りするなどの決断も非常に大切であることもわかり、肝に銘じておく必要性を感じました。

なお、今回は医療通訳に特化した研修ではありましたが、通常の通訳にも共通することも多く、あらためて通訳の姿勢について考えることが出来ました。31名の参加された方は「医療通訳」への理解、そして「私にも支援ができるかも」という思いを抱かれたと思います。

研修最後、村松氏の「『機械翻訳機』ではなく、思いやりの心と使命感を持った医療通訳者が必要です。無理をせず、自分のできる支援の形を探してください。」との言葉通り、自分に何ができるかを模索し、支援していきたいと感じました。



徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的とした当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流事業などに講師（県内在住外国人等）を派遣しております。

見て・感じて・ふれ合って！

長原小学校教諭 西條 美恵子

本校では、毎年11月にインターナショナルオープンスクールを開催しています。今年度は、徳島県国際交流協会の国際理解支援講師派遣制度を活用させていただき、11月17日（火）に開催することができました。本校は全児童が30名の小規模校であるため、いつも全児童、全職員、また保護者や地域の方とともに取り組んでいます。講師として徳島県国際交流員のティル ドウムケ（ドイツ）さんと、国際理解支援派遣講師の四宮アントニー（イギリス）さんが来校してくださいました。

はじめに体育館でオープニングセレモニーが行われました。あたたかい笑顔の講師の方々と迎えて、子どもたちはとてもうれしそうで、セレモニーはとても和やかな雰囲気につつまれました。

次に子どもたちが低、中、高学年に分かれて、各教室で講師の方々と交流しました。母国の文化、生活習慣、自然などについて写真や映像を使って子どもたちへ紹介してくださいました。ティル・ドウムケさんは、ドイツの歴史、有名な建物、食べ物（クリスマス）などを紹介してくださいました。四宮アントニーさんは、イギリスの伝統的な建物や習慣、またイギリス発祥のスポーツなどについてわかりやすく話してくださいました。好奇心旺盛な子どもたちは、はじめて知る外国の文化に驚いたり、喜んだり、疑問に思ったりしながら、大変有意義な時間を過ごすことができました。

そのあと低学年の子どもたちとけん玉をしたり、中学年の子どもたちとカルタや福笑いをしたりして楽しく過ごしました。また高学年の子どもたちとは、徳島の伝統文化である阿波踊りを一緒に踊りました。

最後に体育館で「ふれあいタイム」が行われました。はじめに子どもたちが「長原ソーラン」を披露しました。次に高学年が演奏するよしこのに合わせて、講師の方々、子ども、保護者、地域の方たちが1つになって楽しく阿波踊りを踊りました。みんなで声を上げたり、拍手をしたりとおおいに盛り上がり楽しいひとときを過ごすことができました。

子どもたちは、外国の生活や文化に触れ、体験することを通して、母国の習慣や文化も見直すよい機会をもつことができ、幅広く学習活動を展開することができました。これからも国際理解に関する学習の中で、外国語や外国の文化に触れる活動を積極的に行っていきたいと思います。そして広い視野をもった子どもの育成を目指していきたいです。



徳島県国際交流員のティル ドウムケさん



国際理解支援派遣講師の四宮アントニーさん



3月に3人の方がTOPIAでの任期を終えられました。在任中は徳島県の国際交流などに努めていただきました。みなさん、これからのご活躍を期待しております。

「すべての人に、ありがとう！」

多言語電話相談（窓口案内）員（英語担当）
池上 有理

私は、この4年半トピアで、学びの多い有意義な時間を過ごすことができました。これまで、ご指導頂きましたすべての方々にお世話になりました事を心からお礼申し上げます。

生活相談におきましては、多岐にわたる相談を受け、私なりに未熟ながら、様々なネットワーク機関の関係者にアドバイスを頂き、相談者にお伝えすることができました。

観光案内におきましては、世界各国の観光客から、今まで気づかなかった、日本や徳島の魅力を再認識させられると共に、お互いの願いや思いが伝わった時の楽しさと喜びを感じることができました。

また、日々の日本語教室では、日本語がどんどん上達していく受講者たちに感心させられ、これからの人生において学ぶという姿勢を忘れず、自分ができることに挑戦していきたいと思いました。

その他にも、観光パンフレットや、防災ハンドブック、日本語教材等の制作におきましては、私自身が楽しみながら携わらせて頂くことができ、このような機会を与えてくださった日本語の先生方やスタッフの方々に大変感謝しております。

始まりと終わり、出会いと別れ、嬉しさと悲しさ、相反する言葉ですが、どちらもあるから、いいんですよね。皆さんの笑顔が、私にとって最高の喜びでした。ありがとう！

長期社会体験研修を終えて

長期社会体験研修生 宮本 奈緒子

昨年の4月からトピアでの長期社会体験研修が始まり、国際理解支援講師の派遣や、職場体験のお世話、国際理解支援フォーラムの企画や運営、日本語弁論大会参加者との連絡調整、また、外国人への入門期の日本語指導などの業務を担当した。観光案内も経験できたことは、トピアならではの研修だったと思う。

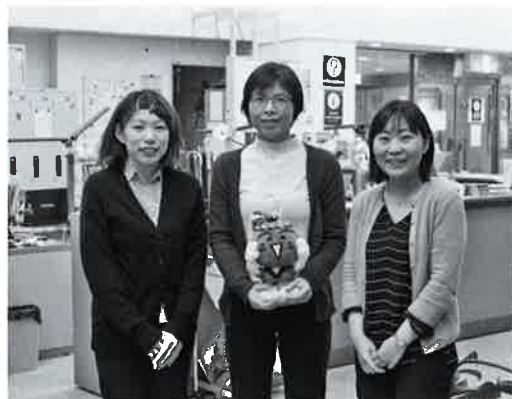
今回の研修から学んだことは、まず職場のスタッフのみなさんの接客の姿勢である。外国人の観光客に対しては、納得のいく観光案内を心がけており、最初不安そうな顔でやって来た観光客も帰る時には、満面の笑みで感謝して観光地へと旅立って行く姿は、特に印象的だった。海外から来る観光客にとっては、温かい、心のかような案内がどれだけうれしいものかを感じ取ることができた。同時に、日頃の自分の教員生活に置き換え、わからずに学ぶ生徒達への接し方を振り返り、できる限り納得できる指導をしなければいけないという思いを強くした。

次に、スタッフのチームワークの良さである。業務に関して疑問な点やわからないことを誰かが投げかければ、いっしょに考えるという協力体制ができている。実際に私も観光案内や担当する業務に関して、たくさんわからないことを教えていただいた。業務を進めるにあたり、重要なことを検討しなければならない場面では、ミーティングで適切なアドバイスを受け、不慣れな職場での研修をよりスムーズなものにすることができた。この環境こそが、いきなり飛び込んで研修する私でも、スタッフのみなさんと共に働いているという意識を持つことができた所以である。チームワークに関しても、ともすれば余裕をなくし、同僚とのコミュニケーションがとりづらくなる学校現場で、忙しい時こそ横のつながりが必要なのではと改めて認識させられた。

この研修を通じて接した方々から学んだことは、自分が幅広く体得した知識や経験は、全て自分の肥やしとなり、それによって身につけた、ものの見方や考え方は、所作や言葉で相手に伝わるということである。私もできる限りいろいろなことを見聞きして、もっと自分の視野を広げなければとつくづく感じた。

このように1年間の研修で得たことは、たいへん意義深く、私の教員としての財産になるに違いない。今回自分が学んだことを学校現場へ帰って生かしていきたい。また、今後も素直に新しいことを吸収できるよう、日々研鑽に励みたいと思っている。

一年間、本当にありがとうございました。



左から（藤本さん 宮本さん 池上さん）

「感謝 感激」

臨時補助員 藤本 真梨

花開き開いてゆく程に時の速さの寂しさに、と私の好きな歌のフレーズにあるように、あっという間の3年間でした。最初は何をすればいいか分からず右往左往し、足をひっぱってばかりでしたがトピアのみなさんのサポートもあり今では慣れて落ち着いて仕事ができるまでになりました。

トピアに来て、日本語弁論大会の手伝いをしたり、あらそわ連に参加して阿波踊りを踊ったりと貴重な経験をさせていただきました。また、外国人と接する機会が多く、自分の知らないことをたくさん知るきっかけになりました。トピアのみなさんと過ごした時間は本当に楽しくて毎日1回は笑っていました。

3年間で出会った人たちとの思い出、経験したことを糧にして次に繋げていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

JICA徳島デスク 国際協力推進員交代のご挨拶

「徳島の皆さんの優しさに助けられ、
楽しかった2年間」

久保 有希

この2年間は、生まれ育った徳島に密着した仕事、そして関心がある国際協力、国際交流の分野で仕事をしたいと考え、JICA国際協力推進員としてTOPIAで勤務し、アフリカやアジアなどの国々からの徳島での研修事業のサポートや、徳島の県民の方々に国際協力のことを知り、理解を深めてもらえるよう、広報業務に取り組みました。推進員の仕事では、徳島の新たな魅力をいっぱい発見しながら、業務を通して多くの方と関わり、さまざまなことを学ばせていただいた、とても楽しい2年間でした。

私は3月からは在セネガル日本国大使館で勤務し、後方業務に携わります。セネガルは治安も安定していることから、日本との文化・スポーツ交流、国際協力が活発に行われているのですが、これらの情報を発信していきたいです。また、2016年からは、日本と共に国連の非常任理事国に選出されているので、今後ますます関係が深まっていくと思います。

2年前は、自分がアフリカで働くなど想像もしていませんでした！この仕事を通じ、視野が広がったことを実感しています。

徳島で、JICAで学んだこと、経験を、今後も活かしていきたいと思っています。



久保さん

上西さん

「徳島の皆さん、はじめまして」

上西 はるか

徳島の皆さま、こんにちは。この度、徳島県の国際協力推進員に着任しました、上西はるかと申します。昨年の9月までアフリカ・ケニア共和国にて青年海外協力隊員として2年間、活動しておりました。赴任先では地方の農業事務所に配属されており、主に農業を通じた現地の人々の生活環境の向上や地域の活性化を目指して、小学校での農業クラブ活動の実施や巡回指導、農家さんに向けたイベントの開催に携わっておりました。

ケニアの地方での活動でしたが、赴任中の2年間は地元である徳島県について度々考えることもあり、協力隊員任期の満了後は徳島へ戻り、過去の経験を活かして徳島県民の一人として国際協力を通じて徳島の国際化・地域活性化に携わりたいと思っておりました。徳島で住んでいると、あまり海外と繋がりが無いように感じられている方も多かもしれませんが、徳島には世界に発信できるような素晴らしい人々や文化、産業、美しい自然があります。それらが国際協力と関わっているということを徳島の皆さまに広く知って頂き、徳島と世界との繋がりを感じられる機会を数多く作っていきたいと思っています。それでは、皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。

平成28年度 前期 TOPIA日本語教室 案内

※時間：10:30～12:00 ※場所：TOPIA会議室

※テキスト：「みんなの日本語Ⅰ」または、「みんなの日本語Ⅱ」（第2版）（2,700円／1冊 CD付き）

（自分で買ってください。）また、季節の行事や、徳島の生活についても、勉強していきます。

※受講料：無料

（この日本語教室は、文化庁の事業です。）

曜 日	先 生		勉 強 の 内 容	はじまる日
火曜日	四宮	入門	《みんなの日本語Ⅰ》1課～ 日本語の基本的な表現をはじめから勉強します。	4/5 (20回)
水曜日	ボランティア	グループ レッスン	レベルにあわせてグループをつくり勉強します。 *子どもといっしょに来る人は、となりの部屋に子どもをあずけることができます。保育の先生が子どもと楽しく遊んでくれます。(予約してください)	4/6 (20回)
木曜日	山田	初級Ⅰ	《みんなの日本語Ⅰ》14課～ 動詞のいろいろな活用形、て形、ない形、辞書形などと、それを使った文型を勉強します。	4/7 (20回)
金曜日	青木	初級Ⅱ・Ⅲ	《みんなの日本語Ⅱ》26課～50課 可能、意向、命令、禁止、条件、理由、受身、使役、敬語表現など、いろいろな表現を勉強します。	4/8 (25回)
日曜日	J TM ボランティア	初級Ⅲ グループ レッスン	《みんなの日本語Ⅱ》38課～ 理由、受身、使役、敬語表現などを勉強します。 レベルにあわせてグループをつくり勉強します。	4/3 (20回)

*グループでの勉強は、前日までに申しこんでください。(当日、急に来た場合、勉強できないことがあります)
またグループの数がかぎられているため、自分のレベルにあわないこともあります。

*休むときは電話連絡をしてください。

木曜日	木村 ほか	特別 入門	ひらがな・カタカナが読めない人、書けない人のクラス。 あいいうえおの勉強と、あいさつ・かず・もののなまえなども勉強します。 また、徳島のことについても勉強します。	いつでも はいれます。
-----	----------	----------	---	----------------

*台風・大雨・大雪により急にクラスがおやすみになることがあります。わからない時は、電話をしてください。

★阿南市国際交流協会、藍住町国際交流協会、吉野川市国際交流協会、NPO法人美馬の里でも日本語教室を開催しています。

★その他日本語学習に関する情報は、TOPIAホームページ「日本語教室」のサイトを見てください。(日・英・中有り)

(公財)徳島県国際交流協会主催

2016年度外国人による徳島県日本語弁論大会

お知り合いの外国人の方にぜひおすすめ下さい！

出場者
大募集！



1. 日時・場所 2016年7月10日(日) 13:30～16:30
あわぎんホール(徳島県郷土文化会館) 5F 小ホール
2. 応募資格 徳島県内在住の日本語を母語としない外国人(日本での義務教育を3年以上受けていない方。また前回までの上位入賞者を除きます)なお、書類選考があります。
3. テーマ この大会の開催趣旨に沿ったもので、異文化理解・多文化共生に関するものであれば自由です。
4. 弁論時間 一人当たりの発表時間は、6分以内とします。
5. 主催/出場申込先 公益財団法人徳島県国際交流協会(トピア/TOPIA)

*詳細は当協会(とくしま国際戦略センター)のホームページをご覧ください。

「とくしま外国人支援ネットワーク会員」 募 集 中

当協会では、自主的に外国人の方を支援していただく「地域共生サポーター」のほか、「語学ボランティア」「災害時通訳ボランティア」「ホームステイ・ホームビジットボランティア」「活動支援ボランティア」を随時募集しています。

ぜひとも、災害時通訳ボランティアをはじめとする、この制度に、多くの皆様のご協力をいただき、外国人の方をサポートして頂ければ幸いです。

英語・中国語による多言語電話 相談・窓口案内を行っています

県内在住外国人および旅行等で来県する外国人の方へ、生活相談や観光案内ができるよう、英語・中国語対応の相談（窓口案内）員を配置しています。

電話での相談の際に通訳が必要な場合には三者通話（トリオフォン）も行います。是非、ご利用ください。

受付時間：平日 10:00～18:00

TEL：088-656-3320（相談電話）

日時、内容等により依頼にお応えできない場合もありますので、ご了承ください。

TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受け取ることができます。

年会費 個人会員 一口3,000円/年度

団体会員 一口5,000円/年度

詳細は当協会まで。資料をお送りします。

国際理解教育を応援します

国際理解支援講師派遣

楽しく、愉快に多文化交流&異文化理解！

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流事業などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。

国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として母国の文化紹介などをしてくださる県内在住外国人の方を募集しています。

「多文化共生の社会づくり」 パネルを貸し出します

あいぽーと徳島と当協会では、外国人の方の人権にスポットをあてた人権啓発パネルを作成しています。講演会や研修会などの際に、このパネルと一緒に展示しませんか？無料貸出しいたします。当協会にお申し込みください。



在住外国人の方対象の 「防災出前講座」をご活用下さい！

当協会では、近年危惧されている南海トラフの巨大地震や、年々増えつつあるその他の自然災害から身を守るために、在住外国人の方を対象にした防災出前講座（言語：やさしい日本語・英語・中国語）を開催し、防災意識の啓発を行っています。*申込は当協会まで。



防災出前講座の様子

問い合わせ： 公益財団法人徳島県国際交流協会

〒770-0831 徳島市寺島本町西1-61
クレメントプラザ6F

Tel : 088-656-3303

Fax : 088-652-0616

URL : <http://www.topia.ne.jp>

Email : topia@topia.ne.jp